学外公開版

TG Grand Vision 150（東北学院中長期計画）
第Ⅰ期中期計画(2016～2020 年度)
総括

学校法人 東北学院

建学の精神

東北学院の三校祖、押川方義、W・E・ホーイ、D・B・シュネーダーは、東北学院の建学の精神を、宗教改革の「福音主義キリスト教」の信仰に基づく「個人の尊厳の重視と人格の完成」の教育にあるとした。

その教育は、聖書の示す神に対する畏敬の念とイエス・キリストにならう隣人への愛の精神を培い、文化の発展と福祉に貢献する人材の育成を目指すものである。

スクールモットー

「LIFE　LIGHT　LOVE」

東北学院の「建学の精神」を象徴するスクールモットー、「LIFE LIGHT LOVE」とは、イエス・キリストの「命（いのち）」・「光（ひかり）」・「愛（あい）」を指します。キリストの命が私たちに与えられ、キリストの光が私たちを照らし、キリストの愛が私たちを包んでいます。それゆえ私たちもまた人々の命のために仕え、人々に光を与えるために働き、人々を自分のように愛するのです。これは聖書を根拠にした本院に関係するすべての人々に対する教えであり、本院の創設時から大切にされてきた言葉です。

LIFE　（いのち）とは、有限な生命体の命と、神が自らの似姿として創造された個人の尊厳を互いに大切にすることです。
LIGHT（ひかり）とは、学問や科学の成果によって新しい時代を切り開くことです。
LOVE　（あい）とは、隣人愛をもって地域や世界に仕えることです。

東北学院教育の基本方針

東北学院は創立以来、本法人に所属する各教育機関において一般の教育・研究活動と共に福音主義キリスト教に基づく宗教教育を一貫して行ってきた。

今後ともそれぞれの教育機関は、正規の学校行事としての礼拝と正課必修としてのキリスト教教育を不変のこととして実施していくものとする。

学校法人東北学院の経営理念

学校法人東北学院は、建学の精神の堅持を根本理念とし、次の三つの基本方針により教育事業の経営にあたる。

1．教育事業を安定的に持続させる経営
2．社会的に適切とされる経営
3．社会に対して説明責任をはたす経営

ビジョン（法人全体における 2036 年将来像）

ゆたかに学び　地域へ　世界へ

- よく生きる心が育つ東北学院 -

目　次

第Ⅰ期中期計画の総括にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
第Ⅰ期中期計画に係る学校法人東北学院企画委員会総括・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

1.TG Grand Vision 150 及び第Ⅰ期中期計画の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

2.第Ⅰ期中期計画における法人事務局及び各設置学校の主な実績 ・・・・・・・・・・・・7

（1）学校法人東北学院（法人事務局）

（2）東北学院大学

（3）東北学院中学校・高等学校

（4）東北学院榴ケ岡高等学校

（5）東北学院幼稚園

3.第Ⅰ期中期計画における社会的評価（インパクト評価） ・・・・・・・・・・・・・・・・21

（1）18 歳人口と東北学院大学・在仙大学別志願者数の推移

（2）宮城県の中学校３学年生徒数と東北学院･東北学院榴ケ岡高校･在仙高校別志願者数の推移

（3）宮城県の小学校６学年児童数と東北学院中学校・在仙中学校志願者数の推移

（4）東北学院大学の知名・興味・志願度の割合(%)推移（東北エリア調査対象 25 校）

（5）受験生が「関心を持った大学」在住エリア別ランキング（東北・北海道エリア）推移

第Ⅰ期中期計画の総括にあたって

学校法人　東北学院
理事長　原田　善教

2016 年東北学院創立 130 周年に 2036 年創立 150 周年を見据えて TG Grand Vision 150(中長期計画)が策定された。それは何よりも少子化という私立学校を巡る社会状況の変化に対応した危機意識の現れであった。「日本の私立学校は、少子化の時代にあって、大変厳しい状況に直面している。TG Grand Vision 150は、東北学院が明確なブランド色を打ち出し、地域におけるプレゼンスをさらに高めることで、この危機を乗り越え、さらには危機をチャンスに変えるための計画である」（TG Grand Vision 150 の策定にあたって）。そこで、創立 150 周年に至る 20 年間のロードマップを提示し、20 年間を５年ごとの４期に区分し、それぞれの期における全体及び各部門の達成目標を明示し、その実現に向けた年度ごとの実行計画（重点項目）を策定し実行することにした。まさに PDCA サイクルの見える化であった。

2020 年度までで５年間の第Ⅰ期中期計画が終了したことを受けて、これまでの総括を行い、次の第Ⅱ期中期計画につなげることにした。各部門の実績については本文を参照いただき、５年間の進捗過程において見出された課題についてまとめておくこととしたい。

第一に、TG Grand Vision 150 への教職員の認知度が低いことである。この点は 2018 年度に行った第Ⅰ期中期計画の中間検証の際のアンケート調査によって明らかになった。それは計画が法人を中心にトップダウンで策定されたことに起因していた。第二に、TG Grand Vision 150 にすべての通常業務も包含され予算化したことによって、特色を示すはずの計画が平板なものとなってしまったことである。第三に、計画の達成に必要な数値目標等を設定しなかったことにより、どこまで進捗したのかを把握することが困難な状況を生み出したのである。

以上の課題が剔抉されたもののこれまで行ったことのない中期計画の策定と実行により、創立 150 周年に向けた「魅力ある東北学院」の実現に幾分かでも近づけたことを成果として喜びたい。なお、それぞれの課題の改善方策は第Ⅱ期中期計画にすでに注入されている。例えば、第一は、本院のスクールモットーを「LIFE LIGHT LOVE」に確定することによって、教職員、学生・生徒・園児の帰属意識を高めるとともに、TG Grand Vision 150 第Ⅱ期計画の策定にあたっては中堅若手教職員を中心にボトムアップ方式を採用している。第二は、特色ある計画だけを抽出し予算化する計画を打ち出している。第三は、第Ⅱ期５年計画という年次計画を意識して、達成目標としての５年間の KGI（重要目標達成指標）と単年度の KPI（重要業績評価指標）を明確に導入している。これらのことによって PDCA サイクルの一層の見える化が進むことになる。

こうした改善方策を導入することによって修正・再編された新規の第Ⅱ期中期計画は、TG Grand Vision 150 及び第Ⅰ期中期計画の精神を継承した実行性の高い計画へと進化することとなった。これらのことが、社会から「選ばれる学校」としての東北学院を実現するための導きの糸となることを切望するものである。

第Ⅰ期中期計画に係る学校法人東北学院企画委員会総括

学校法人東北学院 企画委員会委員長
常任理事（総務担当）　阿部　重樹

創立 130 周年を迎えた 2016 年に新しい TG ブランドの確立に向けて、中長期計画「TG Grand Vision 150（以下、「TGGV150」と記す）及び第Ⅰ期中期計画」をスタートした。本院初めての中長期計画となる「TGGV150」は試行錯誤を繰り返しながらの取り組みとなったが、第Ⅰ期の計画策定・運用の過程において多くの新たな知見を得ながら、ゴールとなる 2036 年（創立 150 周年）に向けて着実な歩みを進めることができた。

第Ⅰ期の進捗管理の仕組みにおける成果としては、まず PDCA サイクルを意識した実行計画策定の意義と理解の浸透が挙げられる。第Ⅰ期は、2015 年度以前まで財務部で管轄していた予算と事業計画における年間フローからの移行期間と捉え、従来の年間フローを一部踏襲したうえで第Ⅰ期計画の運用を行った。すなわち、新たに第Ⅰ期における各年度の実行計画の点検・評価が行われ、この点検・評価にもとづく次年度実行計画の策定が各設置学校において徹底されることにより、中期的な視点に立った PDCA サイクルの浸透・定着が図られた。こうした経験と実績を活かしながら、定量的・定性的な評価指標による進捗管理を次期第Ⅱ期において本格始動する道筋を付けることができた。このように第Ⅱ期では、より客観性が担保された点検・評価にもとづいた事業計画の策定と進捗管理が可能となるため、PDCA サイクルの高度化とマネジメントの質の向上が期待される。

また、次の二つの取り組みにより、TGGV150 に対する教職員の意識付けが高められた。一点目は 2018 年度に設置された第Ⅱ期計画策定に係る企画委員会小委員会ワーキンググループに参加した若手・中堅教職員が第Ⅰ期計画の中間検証を通じて、中期計画の策定に携わったことである。二点目として、TGGV150 を踏まえた各部署の年度ごとの組織目標が設定され、この組織目標と個人の目標管理が有機的に連鎖することにより、TGGV150 が個人の業務レベルに落とし込まれたことである。これらを通じて、教職員一人ひとりが中長期的な視点から本院の発展を意識しながらそれぞれの業務に取り組むという改革マインドを醸成できた。なお、実行計画を通した具体的な活動の成果は、７頁以降の「法人事務局及び各設置学校の主な実績」を参照いただきたい。

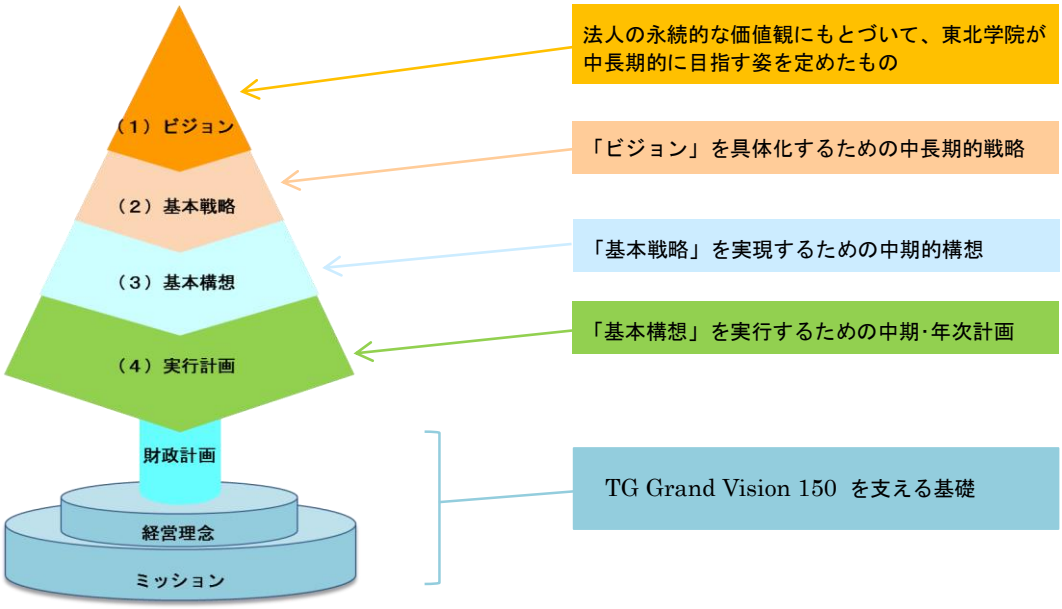
企画委員会では、第Ⅰ期計画を検証するなかで明らかになった課題を踏まえ、第Ⅱ期計画の実効性を一層確実なものとするために、法人事務局及び各設置学校の将来像（「新しい TG ブランド」）を設定し、教職員が向かうべき方向性を明確化し、また TGGV150 の全体構成の見直しを図り、進捗管理と成果指標の仕組みの構築等、大幅な変更を行った。そのため第Ⅰ期と第Ⅱ期計画の継続性の確保が難しくなったという感が一部に残ることとなったものの、TGGV150 第Ⅱ期計画の確実な達成に向けて新たな一歩を踏み出すことができたと考えている。企画委員会では、予測困難な時代のなかで、変化に柔軟に対応できる仕組みを保持しながら、TGGV150 のビジョン及び将来像（新しい TG ブランド）が実現されるよう引き続き取り組んで行く所存である。

1.TG Grand Vision 150 及び第Ⅰ期中期計画の概要

以下は、TG Grand Vision 150 及び第Ⅰ期中期計画（2016～2020 年度）の概要を一部抜粋したものである。

＜TG Grand Vision 150 の構成＞

第Ⅰ期は、ビジョンのもとに基本戦略を置き、その下に基本構想、実行計画が連なる形になっており、ミッション（建学の精神）や経営理念、財政計画は TG Grand Vision を支える土台とした。



（1）ビジョン

ゆたかに学び　地域へ　世界へ
- よく生きる心が育つ東北学院 -

（2）基本戦略

ビジョンを具体化するための基本戦略は＜新しい TG ブランドの確立＞とする。
現在の TG ブランドに５つの要素を新たに加え、新しい TG ブランドを確立する。

＜これまでの TG＞
- ◇地元に強い
- ◇学生･同窓生が多い
- ◇伝統がある
- ◇総合学園･総合大学である

＋

＜これからの TG＞
- ◇地域と連携し地域に貢献する
- ◇社会のニーズにいち早く対応する
- ◇教育の質を保証する
- ◇学生･生徒の満足度を高める
- ◇学生･生徒の思いに応えた支援をする

→ **新しいTGブランド**

（３）基本構想について

・TG Grand Vision 150 の全体期間（20 年）を５年ごとに第Ⅰ期～第Ⅳ期に分け、それぞれについて中期計画を策定する。

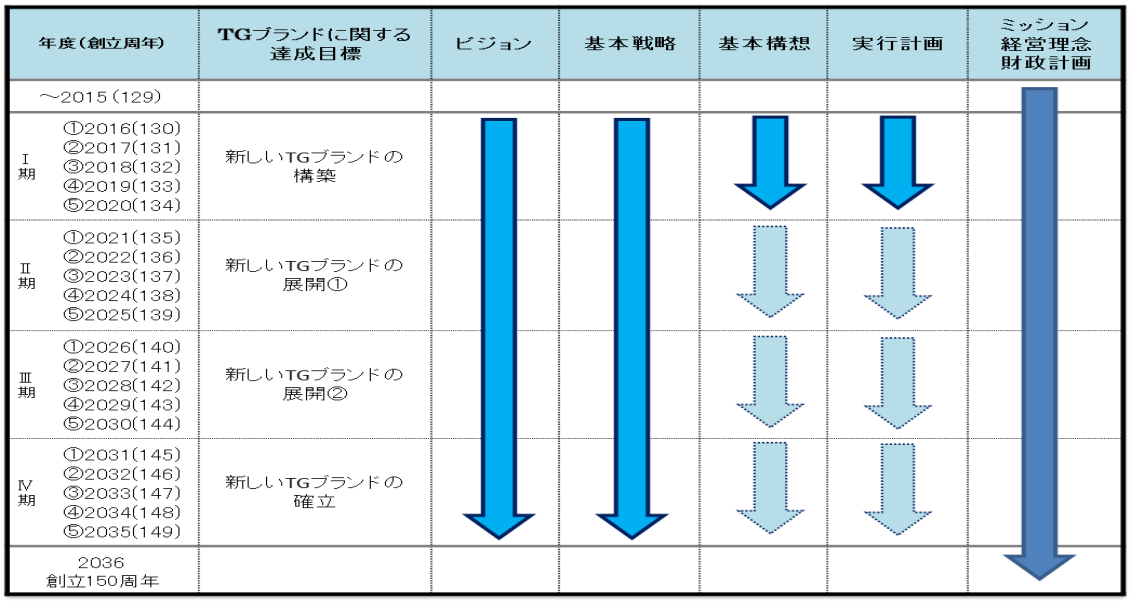
・第Ⅰ期中期計画（2016～2020 年）は＜新しい TG ブランドの構築＞を目指し、基本構想の柱となる５つの領域と領域ごとの基本施策を下記のとおり定める。

・学校法人東北学院、東北学院大学、東北学院中学校･高等学校、東北学院榴ケ岡高等学校、及び東北学院幼稚園は、この５領域･基本施策に基づく第Ⅰ期中期計画を策定し、各部署が立案･策定する実行計画の基礎となる施策方針を提示する。

第Ⅰ期（2016～2020 年）中期計画における領域と基本施策	
＜領域＞	＜基本施策＞
教育･研究	・よく生きようとする心を育て、支える教育を続ける。
	・社会的ニーズにいち早く対応した教育体制･プログラムを整える。
	・教育成果に関する質保証のためのシステムを構築し、機能させる。
	・学生･生徒の満足度を高め、愛される学校となる。
	・学生･生徒の主体的･能動的な学習への支援態勢を整える。
	・質が高く、特色ある研究を推進する。
社会貢献	・開かれた学校として地域社会の多様なニーズに幅広く対応する。
	・地域と連携した取り組みを推進する。
教育環境	・快適な教育･学生生活環境を整える。
	・学生･生徒の多様なニーズに対応したきめ細かい支援を行う。
組織運営	・新たな価値を創造する、イノベーティブな組織文化を育てる。
	・ガバナンス体制を整え、迅速で責任ある決定を行う。
学生･生徒募集、広報	・多様で優秀な学生･生徒を受け入れる。
	・東北学院全体としてのブランド発信力を強化する。

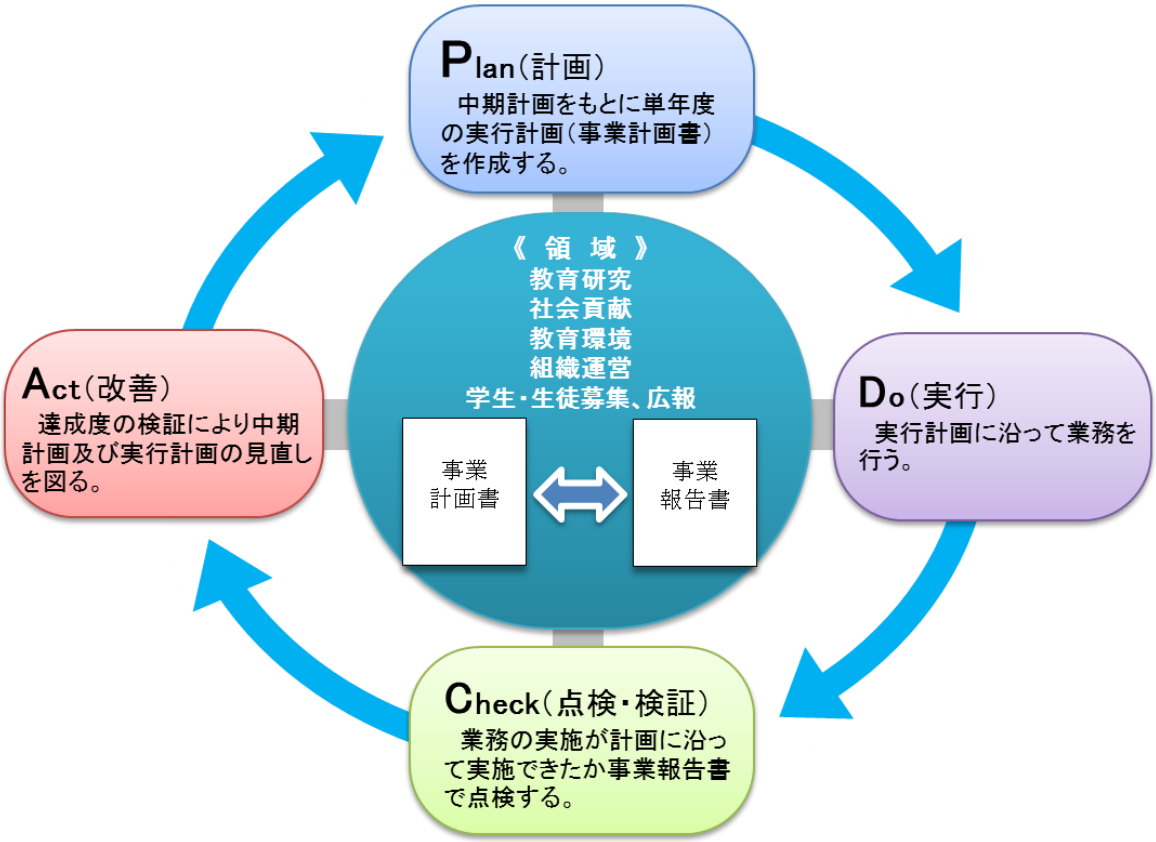
＜TG Grand Vision 150 の工程＞

ビジョン及び基本戦略は、TG Grand Vision 150 の全体期間（20 年）継続するものとし、その期間を４期に区分した５年ごとの達成目標を下記のとおり定める。財政計画は、運営の基本方針を示した中期財政フレームを継続する。



＜第Ⅰ期中期計画における計画の実行及び検証＞

TG Grand Vision 150 の第Ⅰ期中期計画に沿った、５つの領域及び領域ごとの基本施策に基づく計画の実行及び検証を行う。



２.第Ｉ期中期計画における法人事務局及び各設置学校の主な実績

第Ⅰ期中期計画（2016～2020 年度）における法人事務局及び各設置学校の実績を中心に以下のとおり紹介する。

なお、下記＜第Ⅰ期中期計画における主な実績一覧＞に記されている(※)印の実績は、計画当初において、実行計画として作成されていなかったものの、期中において事業が開始されたもので第Ⅰ期中期計画と関連性が強いと考えられる事業を記載している。

（1）学校法人東北学院（法人事務局）

学校法人部門では、本院の教育の根幹として、建学の精神に基づくキリスト教教育の支援と推進を行ってきた。各設置学校においては通常の礼拝を守りつつ、新型コロナウイルス感染症拡大の影響下においても、対策を講じながら礼拝と正課のキリスト教教育を堅持することができた。

社会貢献に関しては、本院内の歴史的建造物の維持管理・公開、本院の歴史的役割や遺産に関する地域への情報発信を積極的に実施した。教育環境の整備に関しては、大学五橋キャンパス計画について、旧市立病院跡地の取得及び解体工事を経て新築工事に着工し、順調に進行している。また、教育支援の一環として、新型コロナウイルス感染症拡大に係る学生及び生徒の学業継続のための経済的支援を実施した。組織運営に関しては、迅速・適切な意思決定のための体制強化を図り、東北学院企画委員会のもと、本院中長期計画「TG Grand Vision 150」の第Ⅱ期中期計画を策定することができた。その中で学校法人東北学院としてスクールモットーを「LIFE LIGHT LOVE」に統一し、各設置学校においても共通の理解を図ることとなった。また、多様化するリスクへの的確な対応を図るため、危機管理規程やマニュアルの改定を行い、法人事務局・大学部門では BCP（事業継続計画）を策定した。コロナ禍における危機管理として、本院全体の危機対策本部会議を設置し、感染拡大防止のための行動指針を定めた。人材育成に関しては、東北学院人事制度を段階的に導入・運用し、職能開発の強化と戦略的政策立案型職員の育成を目指している。広報に関しては、各設置学校のホームページリニューアルや大学 TVCM に全設置学校のロゴを掲出し、法人全体のプレゼンスを向上させる工夫を行うなど、広報一元化体制を強化した。また、学校法人として五橋キャンパス整備、教育学科の新設、大学ブランド・ムービーの配信、重要・有形文化財等のリソースと学術研究の実績を広く周知し、本院全体のプレゼンスを高める広報活動に力を入れた。

第Ⅱ期中期計画においては、第Ⅰ期中期計画において築いてきた以下の実績を強化しつつ更なる改革を進め、伝統を守りながらも新しい「東北学院」の創造へ向け、着実に歩を進めていく。

＜第Ⅰ期中期計画における主な実績一覧＞

教育・研究	実績(開始)年度
130 周年記念事業「東北学院特別展」の開催 (※)	2016 年度
『東北学院の歴史』の刊行	2017 年度
礼拝堂を中心とするキャンパス空間の調査研究の実施（東北学院史資料センター、本学研究ブランディング事業との共催）(※)	2019 年度
正門のデザイン案とみられる図面の発見・図面と現状の比較調査の実施・各種書簡及び写真のデジタル化(東北学院史資料センター、本学研究ブランディング事業との共催)(※)	2019 年度
4K 化した本学所蔵映像に適切な字幕を付した短編映画「東北学院の 40 年」の作成（東北学院史資料センター）(※)	2020 年度

ランカスター神学校で発見された東北学院創立50周年記念式典等を含む16㎜フィルムのデジタル化（東北学院史資料センター）(※)	2020年度
東北学院宗教センターの設置	2020年度
新型コロナウイルス感染症の拡大防止に配慮した各設置学校の礼拝の実施	2020年度

社会貢献	実績(開始)年度
新聞・テレビ・シンポジウムを通じた本院卒業生の実績紹介など、外部への積極的な情報発信（東北学院史資料センター）(※)	継続実施
旧宣教師館（デフォレスト館）の重要文化財指定	2016年度
東北学院創立 130 周年記念事業の実施 (※)	2016年度
130周年記念事業「東北学院特別展」（東北学院史資料センター主催）の開催 (※)	2016年度
『東北学院の歴史』の販売による、学都仙台の形成に寄与してきた本院の歴史的役割の発信	2017年度
土樋キャンパスの本館（旧東北学院専門部校舎）、ラーハウザー記念東北学院礼拝堂、大学院棟（旧シュネーダー記念東北学院図書館）の教職員並びに一般市民に対する有形文化財プレート設置による情報提供	2017年度
創立40周年記念映像フィルムの修復（４Ｋ化）(※)	2018年度

教育環境	実績(開始)年度
大学五橋キャンパス用地（仙台市立病院跡地）の取得	2016年度
大学キャンパス整備準備室の設置	2017年度
大学五橋キャンパス新築工事契約締結	2018年度
大学五橋キャンパス新築工事実施設計の完成	2019年度
旧仙台市立病院（大学五橋キャンパス用地）建物解体工事の完了	2020年度
大学五橋キャンパス新築工事起工式の挙行及び新築工事の着工	2020年度
学生及び生徒の学業継続を支援するための「新型コロナウイルス感染症拡大防止休業要請等に対する緊急給付金」の創設 (※)	2020年度

組織運営	実績(開始)年度
戦略型政策立案型職員の育成に向けた研修等の実施	継続実施
全事務部署を対象とした情報リスク分析・評価の実施 (※)	2016年度
株式会社TGサポートの設立	2016年度
危機管理基本マニュアルの見直し	2017年度
「コンプライアンスに関する基本方針及び関連規程等」の刊行	2018年度
「設置学校将来構想検討会議」の発足 (※)	2018年度
TG Grand Vision 150及び第Ⅰ期中期計画理解度の把握、第Ⅱ期中期計画に盛り込むべき施策（案）の収集を目的としたアンケートの実施（全教職員対象）	2019年度
企画委員会小委員会の設置、設置学校別・領域別ワーキンググループの設置による第Ⅰ期中期計画の中間検証	2019年度

『危機管理基本マニュアル≪別冊≫（BCP：法人・大学編）』の発行	2019 年度
株式会社 TG サポートとの業務委託・提携	2019 年度
新型コロナウイルス感染症対策のための危機対策本部会議の設置（※）	2020 年度
内部統制環境の整備	2020 年度
TG Grand Vision 150 第Ⅱ期中期計画の策定（将来像、政策目標及び施策、目標指標（KGI・KPI）の設定）	2020 年度
「新型コロナウイルス感染拡大防止のための東北学院の行動指針」の策定（※）	2020 年度
全設置学校におけるスクールモットーの統一	2020 年度

学生・生徒募集、広報	実績(開始)年度
創刊 100 周年を記念した『東北学院時報』全号の WEB 公開（※）	2016 年度
各種メディア媒体へのプレゼンス広告掲載	2016 年度
創立 130 周年記念空撮の実施（※）	2016 年度
全設置学校ホームページ全面リニューアル	2017 年度
「東北学院大学アーバンキャンパス計画」ホームページ公開	2017 年度
「東北学院大学五橋キャンパス建設予定地」看板の設置（東二番丁側（清水小路）及び東　七番丁側の仮囲い）	2017 年度
在仙スポーツ団体への協賛	2017 年度
「東北学院ソーシャルメディア利用ガイドライン」の策定	2017 年度
コース制導入に伴った中学校・高等学校及び榴ケ岡高等学校のホームページリニューアル	2019 年度
大学ブランド・ムービーの作成・配信	2019～2020 年度
大学 CM のエンドクレジットにおける全設置学校のロゴの掲出	2019 年度
仙台市地下鉄南北線の五橋駅副駅名広告主の選定	2019 年度

（2）東北学院大学

大学部門では、第Ⅰ期中期計画（以下「第Ⅰ期」と言う。）に基づき、体系的・一体的な３つのポリシー「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」、「入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)」を 2016 年度に策定し、その具体化に向けた計画を着実に実行している。これにより第Ⅰ期全体で大学教育の質的転換を図りつつ、質保証体制の構築と運用が進められている。また第Ⅰ期の柱である「教育の質保証」、「学生の思いに応える支援」、「学生の満足度の向上」、「地域との連携と地域への貢献」及び「社会的ニーズへのいち早い対応」を各学部・各部署等においても計画を策定・実行したことで、以下の実績を得た。第Ⅰ期の最終年度となる 2020 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響下の中で、教育活動の継続と感染拡大を防ぐため、遠隔型授業を導入し、IR による根拠に基づく継続的な改善により、ニューノーマル時代に対応した授業を行うことができた。また、本学の歴史において大きな転換期を迎える 2023 年度五橋キャンパス開学に向け、新学部等の教学組織改編計画を具体化し、第Ⅱ期中期計画（以下「第Ⅱ期と言う。」）につなげている。なお、第Ⅰ期で目標に掲げていた大学院教育改革については、2023 年度に向けた教学組織改編を踏まえた上で第Ⅱ期で引き続き検討し、具体案を策定することとしている。

第Ⅱ期では、第Ⅰ期で構築した教育の質保証をさらに向上させるために、BYOD(Bring your Own Device：学生 PC 持参による授業)の導入による遠隔授業の質の改善及び e-portfolio の構築・運用による学修成果の可視化を目指すこととしている。

＜第Ⅰ期中期計画における主な実績一覧＞

教育・研究	実績(開始)年度
学校教育法施行に基づく、３つのポリシー（学位授与の方針、教育課程編成の方針、入学者受け入れの方針）の策定・浸透	2016 年度
経済学部における学習支援システム(Learnig Management System：manaba) 先行導入	2016 年度
成績評価方法としての GPA の採用(2016 年度入学生より導入)	2016 年度
私立大学研究ブランディング事業「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」による本学の文化財の調査研究【計画期間：2016～2020 年度】	2016 年度
公益財団法人大学基準協会による「認証評価」の受審と大学基準への適合認定	2017 年度
全学部における学習支援システム(Learnig Management System：manaba) 導入	2017 年度
入学時英語プレースメントテストの結果によるグレード別教育の導入(2017 年度導入：経済学部、経営学部、法学部、工学部、2019 年度導入：文学部(英文学科、教育学科を除く)、教養学部)	2017 年度 2019 年度
私立大学研究ブランディング事業「東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業」におけるラーハウザー記念東北学院礼拝堂ステンドグラスの調査・修復完了	2017 年度
学内に点在する様々な方針を集約した「東北学院大学の基本方針 2017」の刊行	2017 年度
入学前教育プログラム(LINES)の導入	2017 年度
西南学院大学との相互評価に関する協定締結	2018 年度
全学的な履修単位制限(CAP)の見直し	2018 年度
英語教育センターを中心とした組織的英語教育の強化(２年次終了時点での英語力測定の実施)	2018 年度

ラーニング・コモンズにおけるアカデミックサポーター(学生運営メンバー)の制度化	2018 年度
新たな国際交流協定の締結(新規 10 校増)	2016～2019 年度
自校史教育「東北学院の歴史」の新設(2019 年度入学生の３年次配当)	2019 年度
新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した大学礼拝の動画配信及び人数制限による対面礼拝の実施	2020 年度
e-ラーニングの活用・推進（遠隔型授業及びハイブリット型授業の整備・実施）	2020 年度
BYOD（Bring Your Own Device：学生 PC 持参による授業）実施にむけた検討(2021 年度入学生から導入)	2020 年度
外部資金（科学研究費を含む競争的研究資金）等の獲得推進による研究力強化（応募支援制度の構築）(※)	2020 年度

社会貢献	実績(開始)年度
地(知)の拠点整備事業(COC)「地域共生教育による持続的な「ひと」づくり「まち」づくり事業」による地域社会との連携及び貢献（地域教育科目の設置、CSW の実施、地域志向公開講座の実施等）【補助事業期間：2014～2018 年度】	2016～2018 年度
地(知)の拠点大学による地方創成推進事業(COC＋)「みやぎ・せんだい協働教育基盤による地域高度人材の育成事業」による地域社会との連携及び貢献(地域高度人材の育成地域教育科目の設置、地元企業情報発信事業等)【補助事業期間：2015～2019 年度】	2016～2019 年度
コミュニティソーシャルワーカー（CSW）スキルアッププログラム開講	2016 年度
学生・大学による災害・復興ボランティア活動の実施	継続実施
地域連携センターの設置	2019 年度
博物館創立 10 周年記念特別展開催	2019 年度
「みやぎ・せんだい協働教育基盤による地域高度人材の育成事業(COC＋)」継承事業の「宮城県、仙台市、宮城県内９大学等、七十七銀行、仙台銀行及び仙台商工会議所の連携・協力に関する協定」締結	2020 年度
東日本大震災 10 年を踏まえた総合学術雑誌『震災学』発刊、大学間連携災害ボランティアシンポジウムオンライン開催	2020 年度

教育環境	実績(開始)年度
ラーニング・コモンズの運用開始	2016 年度
学生総合保健支援センターの開設	2016 年度
新図書館システムの公開	2016 年度
予約継続型給付奨学金〈3L 奨学金〉の創設（2018 年度入学生から実施）	2017 年度
TG インターンシップの実施（実施対象３年生から２年生まで拡大実施）	2017 年度
情報処理センター新システムサービス開始	2019 年度
新型コロナウイルス感染症の影響を受けて家計が急変した困窮学生に対する緊急給付金の新設	2020 年度
同時双方向型オンライン授業システム(Zoom)導入	2020 年度

「G Suite for Education」サービス提供本格開始	2020 年度

組織運営	実績(開始)年度
「インスティテューショナル・リサーチ課（ＩＲ課)」の設置	2016 年度
自己点検・評価活動の体制強化のための副学長(点検・評価担当)の設置	2017 年度
将来構想検討ワーキンググループによる新学部・学科構想の検討開始	2017 年度
工学部情報基盤工学科の設置	2017 年度
文学部教育学科の新設	2018 年度
新学部設置に伴う「教学組織改編推進室」の設置	2019 年度
IR 機能の強化(アセスメントテスト、進路・就職先への学修成果調査の実施)	2019 年度
学内の基礎データ集『TGU Fact Book 2019』刊行	2019 年度
新学部構想の設置準備	2020 年度
教養教育センターの設置準備	2020 年度

学生・生徒募集、広報	実績年度
入試改革における WEB 出願の導入	2016 年度
課外活動応援サイト「TG　MIND」の運用開始 (※)	2016 年度
入試改革における外部英語検定試験（文学部）の導入	2017 年度
アドミッション・オフィス及びアドミッション・オフィサーの設置	2017 年度
教養学部設置 30 周年記念事業の実施	2018 年度
地下鉄五橋駅副駅名入札参加・選定	2019 年度
2020 年度一般入試、センター試験利用入試の WEB 出願への全面移行	2019 年度

（３）東北学院中学校・高等学校

2016-2020 年度については、行事は概ね実行計画どおりに実施されたが、最終年度である 2020 年度は、コロナ禍で行事の大幅な変更を余儀なくされた。しかし、本校の強みであるオンラインを活用し、多くの行事が開催できた。2017 年度に開始したコース制についても、教育研究部の新設、ICT 機器の整備などの要素を加え、それぞれの特徴を鮮明にしながらブラッシュアップした結果、特別選抜・特別進学コースで、久々に東大合格者２名を出すなど顕著な成果が現れてきている。他コースにおいても生徒個々人が希望通りの進路に進み、将来の目標へ向かって歩み出せている。部活動については、基本方針を改定し、各部が生徒の主体性を最大限尊重し、定期的な休日をとることを義務付けた。外部指導者制度の導入については早急に検討しなければならない。2019 年度に開始した「授業づくり研修」については、２年目となる 2020 年度も研修会を実施し、公開授業・事後検討会を開始することで、授業モデルの開発が進むようになった。「生徒による授業評価」も実現することができ、教員へのフィードバックによる効果も実感できた。今後も、外部講師の助言も得て、さらなる授業改善につとめていきたい。

教育環境の整備については、行事や長期休暇の削減などの工夫により最大限の授業日数確保はできている。Chromebook や Classi 導入に加え、施設では、陸上競技場の改修が実現されたことは大きいが、その他では既存設備の修繕整備による現状維持にとどまり、共学に備えた十分な施設・設備の改修や図書室の整備、体育館の照明、通学路の防犯対策など早急に取り組まなければならない課題は多い。

組織運営では、「専任一人教科の解消」は実行できたが、主要５教科の専任率については、財政的な問題もあり大きく改善されたとは言えない。ただ、中学校での外国語指導助手と日本人教員の TT（チーム・ティーチング）指導、ALT（外国語指導助手）による放課後指導は実現できた。

社会貢献においては、学校周辺の清掃活動や被災地・近隣仮設の方々との交流会を通し、ボランティア活動に対する意識の向上を図る企画が継続できている。

募集広報においては、受験者増に結びつく施策がなかなか見いだせない中、今年度は共学化も見据え抜本的に募集活動全体を見直すきっかけとなった年であった。説明会のあり方や広報活動を細かに見直し、定員確保を目指したい。

以上が第Ⅰ期中期計画の総括となるが、第Ⅰ期の成果と課題を施策ごとに更に細かく分析し、第Ⅱ期中期計画の円滑な実施に活かしていきたい。

＜第Ⅰ期中期計画における主な実績一覧＞

教育・研究	実績(開始)年度
建学の精神に基づく教育の充実	継続実施
教育方針３「持続可能な開発のための教育(ECD)」の推進に向けた総合的な学習の時間「3L 希望学」実施	2016 年度～
「G Suite for Education」及び「Classi」ICT 利活用に関する教員研修実施	2016 年度
教育内容・方法の質的転換に向けた「3 観点（主体性、好奇心、考え深める）3 手法（ICT、協働学習、発表・行動)」に基づく授業づくりの実施	2016 年度～
外国語指導助手の採用及び外国語指導助手による昼休み・放課後の英会話指導、海外研修指導の実施	2016 年度～
卒業生指導による「学院塾(ブラザー制)」開講	2016 年度～
組担任、学年、いじめ問題対策委員会及び生徒指導部によるいじめ対策の強化及びいじめ防止研修の実施	継続実施
部活動の基本方針の策定	2017 年度
新コース制(中学校：特別選抜コース、総合コース、高等学校：特別選抜コース、特別進学コース、総合進学コース、東北学院大学コース)の導入	2017 年度
ニュージーランドの中高一貫校ワイヒカレッジ（Waihi College）と姉妹校締結	2017 年度
英語教員の資質能力向上のための研修会「次期高等学校学習指導要領を踏まえた領域統合型の英語指導法」開催	2018 年度
カリキュラム・マネジメントの考え方に関するワークショップ開催	2019 年度
オンライン授業等の活用に向けた Google Hangouts Meet、Zoom、Google Jamboard に関する研修会の実施	2019 年度
英語教員の資質能力向上のための「設置学校英語教員授業力向上のための研修会」開催	2019 年度
中高大一貫教育の連携強化(英語教育、ICT 教育、理科教育等)	継続実施
ハーバード大学生プログラム(JAAC SLICE)の実施（※）	2019 年度
新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した放送による礼拝及び学年交替による礼拝堂での対面礼拝の実施	2020 年度
新型コロナウイルス感染症の流行下におけるノート PC 生徒一人１台環境を生かした	2020 年度

遠隔授業の全科目実施	
通学型オンライン形式による英語集中研修 Global Exchange Program 等の実施(夏季休暇)	2020 年度
2022 年度からの共学化を含む学校改革の構想の公表	2020 年度

社会貢献	実績(開始)年度
被災地や近隣仮設の方々との交流会・ボランティア活動	継続実施
学校周辺の清掃活動	継続実施
近隣小中学校とのスポーツ交流	継続実施

教育環境	実績(開始)年度
東日本大震災に係る授業料軽減事業 (※)	継続実施
ノート PC 生徒一人１台整備（2018 年度全学年整備完了）(※)	2016～2018 年度
授業支援・学習記録システム「Classi」の導入	2016 年度
教育内容充実に向けた授業時数確保のための年間行事の検証	2017 年度
無線 LAN ネットワーク構築工事の実施	2016～2018 年度
電子黒板機能付きプロジェクター及びマグネットスクリーンの設置	2016～2018 年度
陸上競技場の改修	2020 年度

組織運営	実績(開始)年度
教員の指導力向上に資するための「東北学院中学校・高等学校 ICT 教育公開授業兼 ESD 発表会」実施	2016 年度
教育の質的転換に向けた「教育研究部」の新設	2016 年度
教員初任者の指導力向上を図るための教育研究部による初任者研修の実施	2017 年度～
英語・数学教科による少人数クラス指導体制(中学２年生)の導入	2018 年度～
教育研究部によるハラスメント防止研修の実施	2018 年度 2019 年度
教員人事制度の部分実施	2018 年度～
生徒による授業評価の実施	2018 年度～
学校評価の再構成・統合(対象者：生徒、保護者、教職員）(※)	2019 年度～
教育研究部におけるグローバル教育全般の統括（国際交流委員会の業務統合）(※)	2019 年度～
東北学院中学校・高等学校と東北学院榴ケ岡高等学校の教員職員人事交流の決定(2021 年度より開始）(※)	2020 年度

学生・生徒募集、広報	実績(開始)年度
コース制導入に伴う広報活動の展開(※)	2016 年度

新特待生制度の新設	2017 年度
高校一般入試 A・B 日程の実施及びインターネット出願の導入(※)	2018 年度～
広報と募集活動の充実に向けた学校説明会の内容・運営等の改善	2018 年度～
広報と募集活動の充実に向けた学習塾への訪問強化	2019 年度～

（4）東北学院榴ケ岡高等学校

TG Grand Vision 150 第Ⅰ期中期計画については、東北学院にとって大きな節目となる創立 150 年における「あるべき姿」に向けた初期の事業計画であった。また、計画立案及び計画実行中に、本校におけるコース制導入など、学校運営に大きな変化が生じたことにより、計画期初年度となる 2016 年度と比して第Ⅰ期計画全体の点検・評価に困難な点もあるのは事実である。

その中でも、最大の成果として挙げられるのは、教育職員及び事務職員が学校経営を念頭に置いた教育活動の意識改革が進行したことである。どのような高校が評価され、どのような高校が「入りたい学校」と思われるのかということが意識されながら、年々各部署において新たな取組を立案し、実行することで志願者の増加と成果の検証により、東北学院榴ケ岡高等学校全体での改革の必要性と重要性が強く認識されてきた。

第Ⅰ期の反省点として、それぞれの領域における実行計画においては、「主体的で対話的な深い学び」を取り入れた授業改善、体系的な進学指導の構築、施設設備の改善に関わることについて、十分な取組の実行には至らなかった。

第Ⅱ期中期計画中の 2023 年 4 月には、大学泉キャンパスが移転することとなる。そのような変化にあっても魅力ある高校づくりを実現していくために、上記反省点で述べた「主体的で対話的な深い学び」を取り入れた授業改善、体系的な進学指導の構築、施設設備の改善に関わることは、各コースの実情に合わせて、継続・発展させていきたい。また、これらの取組を中学生及びその保護者にも周知できるような広報における新たな取組や「通いやすい学校」となるための方策を第Ⅱ期の実行計画に含めながら、第一の施策として取り組んでいきたい。

＜第Ⅰ期中期計画における主な実績一覧＞

教育・研究	実績(開始)年度
建学の精神に基づく教育の充実	継続実施
東北学院大学との連携強化（宗教教育、英語教育、ICT 教育他）	継続実施
キャリア教育講演会の開催 (※)	継続実施
授業公開の推進と授業力の向上	継続実施
主体的学習態度の形成に向けた教育内容・方法（アクティブ・ラーニング）の 質的転換の推進	2017 年度～
魅力ある学校づくりのための特色ある教育（第二外国語〔独語・仏語・中国語〕）の充実	2017 年度～
新しい大学入試に備えた教育課程の改編	2017 年度
教員対象英語力向上支援プログラム実施	2017 年度～
コース制の導入	2019 年度～
特別進学コースにおける STEM 教育、課題研究・放課後タイムの実施(※)	2019 年度～

TG 選抜コースにおける TG タイム、グローバル教育の実施	2019 年度～
総合進学コースにおけるピア・ラーニング、サービス・ラーニングの実施	2019 年度～
Google Classroom を利用した遠隔授業の実施(※)	2020 年度
2 年生の取り組みを 1 年生に伝える「ピア・チューター」の導入（全コース）	2020 年度～

社会貢献	実績(開始)年度
生徒会を中心としたボランティア活動	継続実施
各部活動を中心としたボランティア活動	継続実施

教育環境	実績(開始)年度
東日本大震災に係る授業料軽減事業(※)	継続実施
サーバ・ネットワークシステム及び CAI 教室機器の取替更新の実施	2016 年度
図書システム（機器）取替更新	2016 年度
ICT 教育環境の整備（校内無線 LAN 敷設）	2016 年度～
ICT 教育環境の整備（電子黒板等授業支援構築）	2017 年度～
セキュリティ体制の強化・充実	2017 年度～
体育館・武道館を除く全館の空調設備完備	2019 年度
LMS（Classi）の導入(※)	2019 年度～
生徒用机及び椅子の取替更新	2020 年度
Chrome book の導入（1 年生）	2020 年度～

組織運営	実績(開始)年度
外部評価の導入	2016 年度
職員及び教員人事制度に基づく組織の活性化	2017 年度～
校務分掌の再構築	2017 年度
学校経営会議の発足	2017 年度～
学校経営会議と各分掌の連携強化(※)	2018 年度～
学校経営会議と各委員会との連携強化（コース制準備委員会、教育充実研究委員会、２１世紀型教育研究委員会及び入試対策室の設置）(※)	2018 年度～
学校経営会議付属の委員会の再編(※)	2019 年度
上位管理職研修及び Chrome book・Google Classroom 活用促進のための教職員対象研修の実施(※)	2020 年度

学生・生徒募集、広報	実績(開始)年度
中学校訪問の強化	継続実施
PC、スマートフォン等からのデジタル広報（学校案内、募集要項等）の作成・公開	2017 年度～
学校行事等の動画広報の実施	2017 年度～
Web 出願の導入	2018 年度～
コース制導入に対応した広報活動の展開	2018 年度～

コース制導入に伴うホームページ大幅リニューアル	2018 年度

（5）東北学院幼稚園

TG Grand Vision 150 第Ⅰ期中期計画における東北学院幼稚園の取組の中でも、建学の精神に基づいたキリスト教教育の維持と発展は、礼拝を中心にイエス・キリストとの交わりに支えられ継続して実施できた。また、経験を通じて学ぶ幼児の特性を踏まえ、体験型教育を重視し、自然に恵まれた園庭で園児達が思い切り遊ぶ時間を十分に確保したことで、健やかな身体、人との関わり、社会生活を送る上での必要な資質が育まれた。

2018 年に入園児が減少したことを機にして入園児減少対策検討委員会が持たれ、土曜預かり保育延長、給食週 5 日制導入、広報活動の充実、大型看板設置等の施策を実行した。加えて、未就園児活動の発展的活動の導入により入園児増加につながった。

今後も本学の建学の精神であるキリスト教に基づく人格教育を教育の中心にし、子どもたちの健やかな成長を育むために、「①礼拝の充実」、「②教育及び教員の質の向上」、「③子ども子育て支援新制度への移行による収支の改善」、「④工学部移転後の体制確立」を第Ⅱ期中期計画において重点的に推進する。②と③に関しては、教員の確保にも関わっており、幼稚園教諭が不足している現状を踏まえ、人材確保も迅速に対応していく必要がある。

2020 年度には設置学校将来構想検討会議（幼稚園）が持たれ、財政の健全化を図るため運営方針の変更（「子ども子育て支援新制度：施設給付型幼稚園」への移行）と人件費の見直しを決定し、第Ⅰ期計画中に施策の大きな変更が必要となった。そのため、施策それぞれの達成や評価が難しい項目が複数あることも事実である。計画見直しにより保護者や教員、園の運営に大きく影響したことは反省点として改善を続けていきたい。

今後も東北学院幼稚園の教育により、生涯にわたる生きる力の基礎を培い、他者と共に喜びを持って生きる園児の育成を目指す。

＜第Ⅰ期中期計画における主な実績一覧＞

教育・研究	実績(開始)年度
建学の精神に基づく保育活動と教育の質的向上	継続実施
「生きる力」を身につける「遊び」を通した保育の発信	継続実施
大学との連携・交流活動の充実（英語教育活動）	継続実施
中・高との連携・交流活動の充実（職場体験・預かり保育サポート）	継続実施
東日本大震災にかかわる保育料減免事業の実施	継続実施
創立 130 周年記念東北学院フェスティバルへの参加	2016 年度
新規課外教室「プログラミングクラブ」導入に向けての計画の策定(※)	2020 年度

社会貢献	実績(開始)年度
クリスマスコンサートの実施	継続実施
地域住民や高齢者との交流（花の日訪問、高齢者施設訪問）	2017 年度～
ボランティア活動への参加（JOCS 支援活動参加）(※)	継続実施
預かり保育の拡大（早朝預かり・土曜預かり保育の実施）	2018 年度～

未就園児活動の充実と改善	2018 年度～

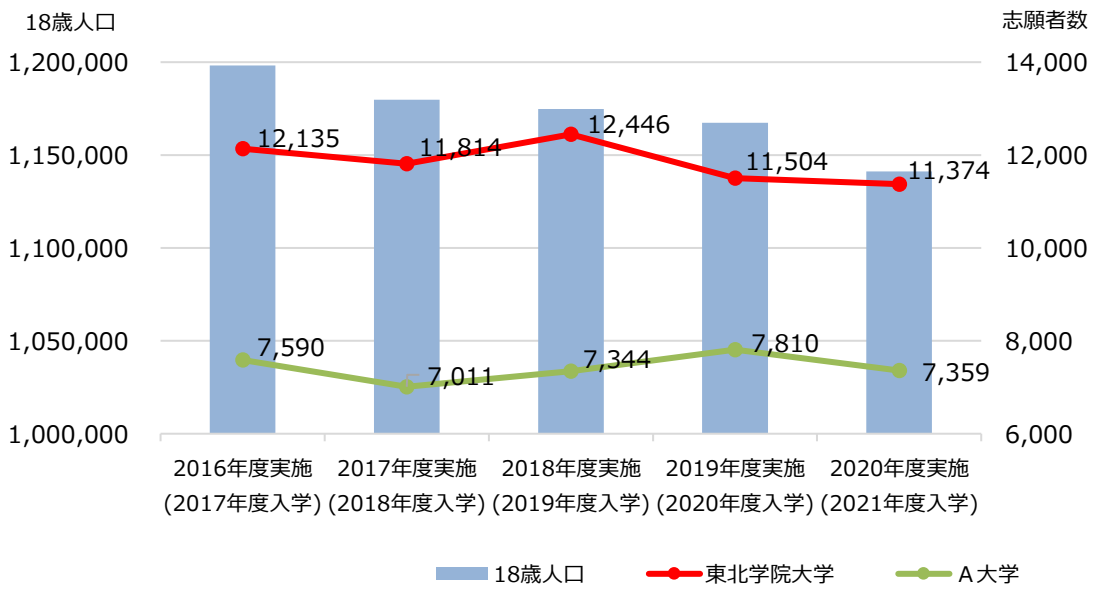
教育環境	実績(開始)年度
老朽化した教育施設や保育室内備品の年次計画に基づく整備	継続実施
給食の充実（週 3 日から 5 日へ変更）	2019 年度～
リードオルガンのオーバーホールによる礼拝の充実	2020 年度
セキュリティー体制の強化（防犯カメラの導入）	2019 年度

組織運営	実績(開始)年度
教職員研修の充実	継続実施
教員の計画的採用	2016 年度～
教職員配置の抜本的見直し	2020 年度
東北地区私立幼稚園教員研修大会公開保育開催と近隣協力園との交流	2017 年度
入園児減少による入園時確保に向けた施策の実行	2018 年度
安定的財政運営方策の策定（子ども子育て支援新制度移行及び人件費の見直し）	2020 年度

学生・生徒募集、広報	実績(開始)年度
地域への広告・宣伝活動	継続実施
オープンキャンパスの実施	継続実施
ホームページリニューアル	2018 年度
大型看板と掲示板の設置	2018 年度
GoogleMap における幼稚園のストリートビューでの広報	2018 年度～

３. 第Ｉ期中期計画における社会的評価(インパクト評価)

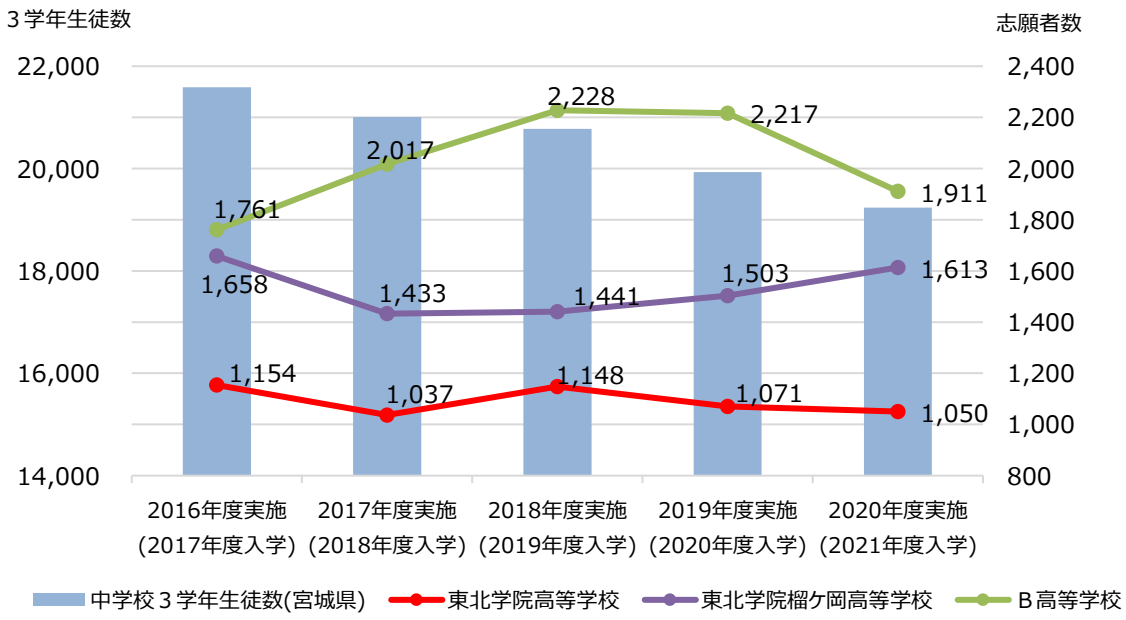
（1）18 歳人口と東北学院大学・在仙大学別志願者数の推移



入学定員：東北学院大学　2, 455 名（2016 年度）、2, 656 名（2017～2020 年度）
Ａ大学　1, 300 名

＜出典＞文部科学省「学校基本調査」（平成 25 年度～令和 2 年度）
※18 歳人口は３年前の中学校卒業者、中等教育学校前期課程修了者数及び義務教育学校卒業者数を元に作成

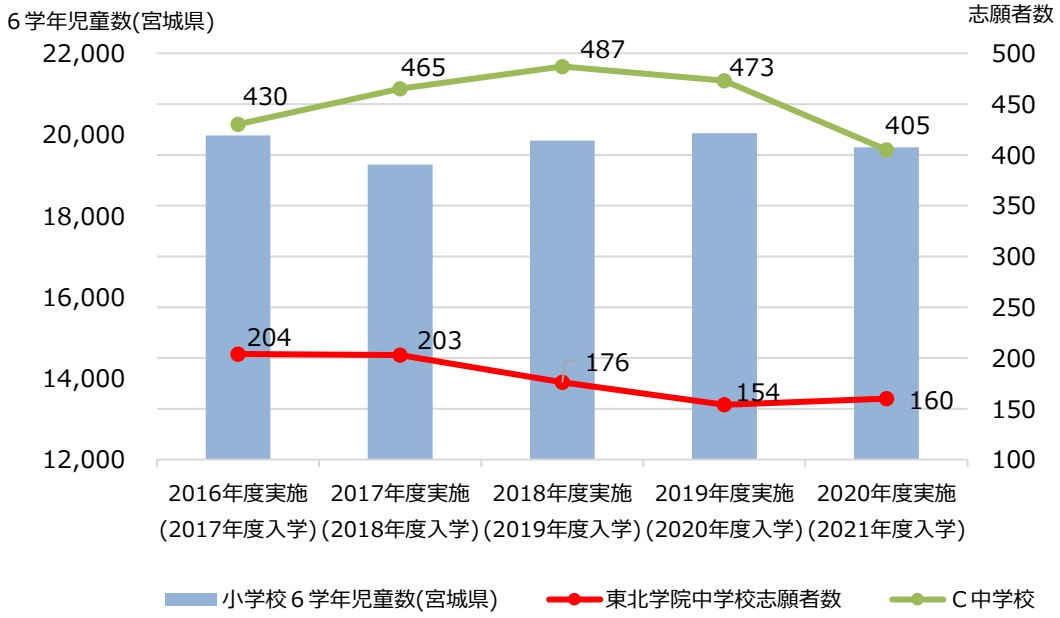
（2）宮城県の中学校３学年生徒数と東北学院・東北学院榴ケ岡高校・在仙高校別志願者数の推移



入学定員：東北学院高等学校 360 名
東北学院榴ケ岡高等学校 270 名
Ｂ高等学校　240 名

＜出典＞文部科学省「学校基本調査」（平成 28 年度～令和 2 年度）
※宮城県の中学３学年生徒数は中学校、中等教育学校及び義務教育学校の学年別生徒数を元に作成

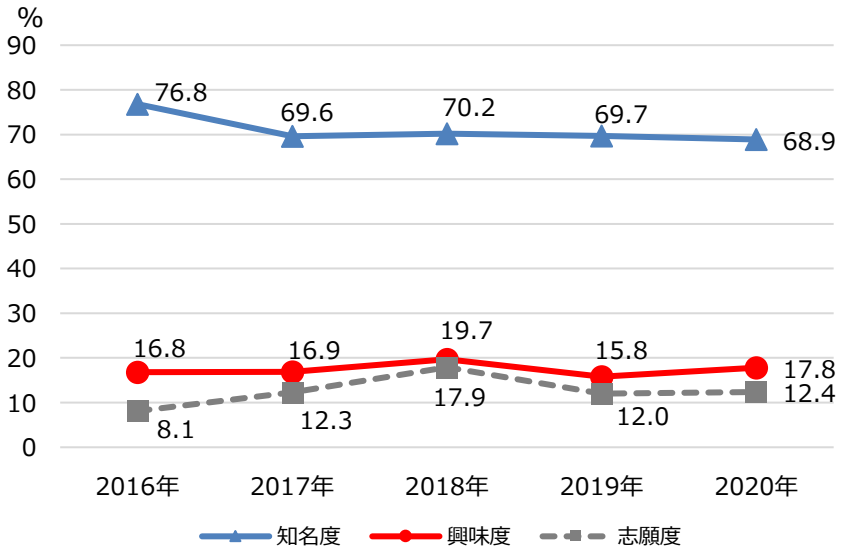
（3）宮城県の小学校６学年児童数と東北学院中学校・在仙中学校志願者数の推移



募集定員：東北学院中学校 180 名
Ｃ中学校 105 名

＜出典＞文部科学省「学校基本統計」（平成 28 年度～令和 2 年度）
※宮城県の小学校６学年児童数は小学校の学年別児童数を元に作成

（4）東北学院大学の知名・興味・志願度の割合(%)推移（東北エリア調査対象 25 校※）



＜出典＞株式会社リクルート　リクルート進学総研「進学ブランド力調査」2016～2020 年より
調査対象：リクルートが保有するリストで、東北の高校に通っている高校３年生

※補足説明：2016～2018 年の調査対象 25 校は私立大学のみ。2019 年以降、国公立大学を含む 25 校が調査対象。
※2020 年調査対象 25 校（うち国公立大学 7 校[下線]）：
青森大学、青森中央学院大学、秋田大学、石巻専修大学、いわき明星大学、岩手大学、郡山女子大学、国際教養大学、尚絅学院大学、仙台白百合女子大学、仙台大学、東北学院大学、東北芸術工科大学、東北公益文科大学、東北工業大学、東北大学、東北福祉大学、東北文化学園大学、東北文教大学、弘前大学、福島大学、宮城学院女子大学、宮城教育大学、盛岡大学、山形大学

（5）受験生が「関心を持った大学」在住エリア別ランキング（東北・北海道エリア）推移

順位	2016	2017	2018	2019	2020
1	東北大学	東北大学	東北大学	東北大学	北海道大学
2	北海道大学	山形大学	山形大学	北海道大学	東北大学
3	山形大学	北海道大学	北海道大学	山形大学	山形大学
4	弘前大学	弘前大学	弘前大学	東北学院大学	弘前大学
5	岩手大学	岩手大学	東北学院大学	弘前大学	東北学院大学
6	東北学院大学	東北学院大学	岩手大学	岩手大学	北海道教育大学

＜出典＞株式会社フロムページ「テレメール全国一斉進学調査」2016 年度～2020 年度より

TG Grand Vision 150（東北学院中長期計画）

第Ⅰ期中期計画(2016～2020年度)総括

編集・発行　学校法人東北学院企画委員会
https://www.tohoku-gakuin.jp/
〒980-8511仙台市青葉区土樋一丁目３番１号
（法人事務局庶務部企画課）

2021年7月